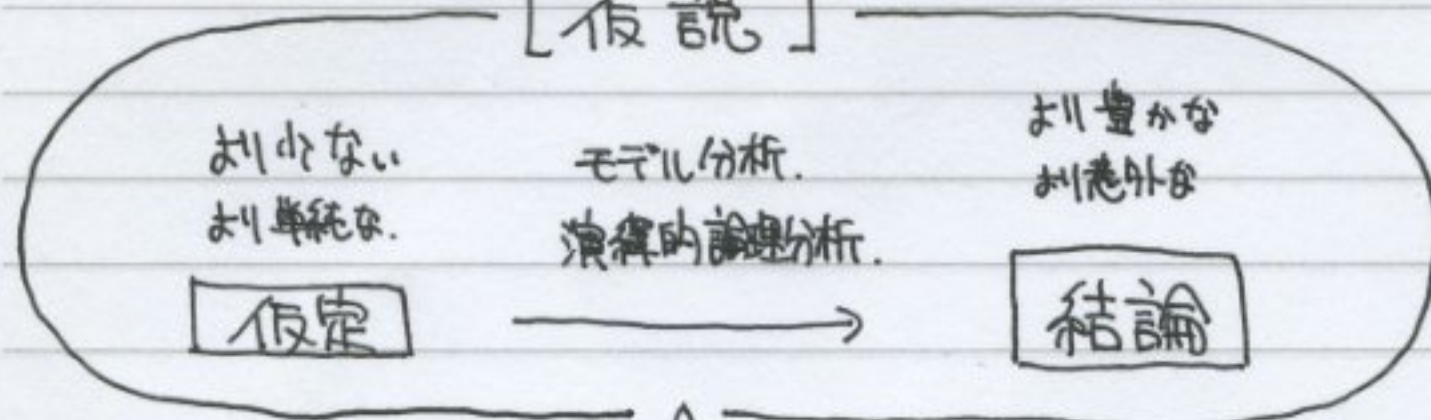


○ 経済学の分析方法 : 論理実証主義

[仮説]



検証: 実証分析 (棄却出来ないもののみ残る)

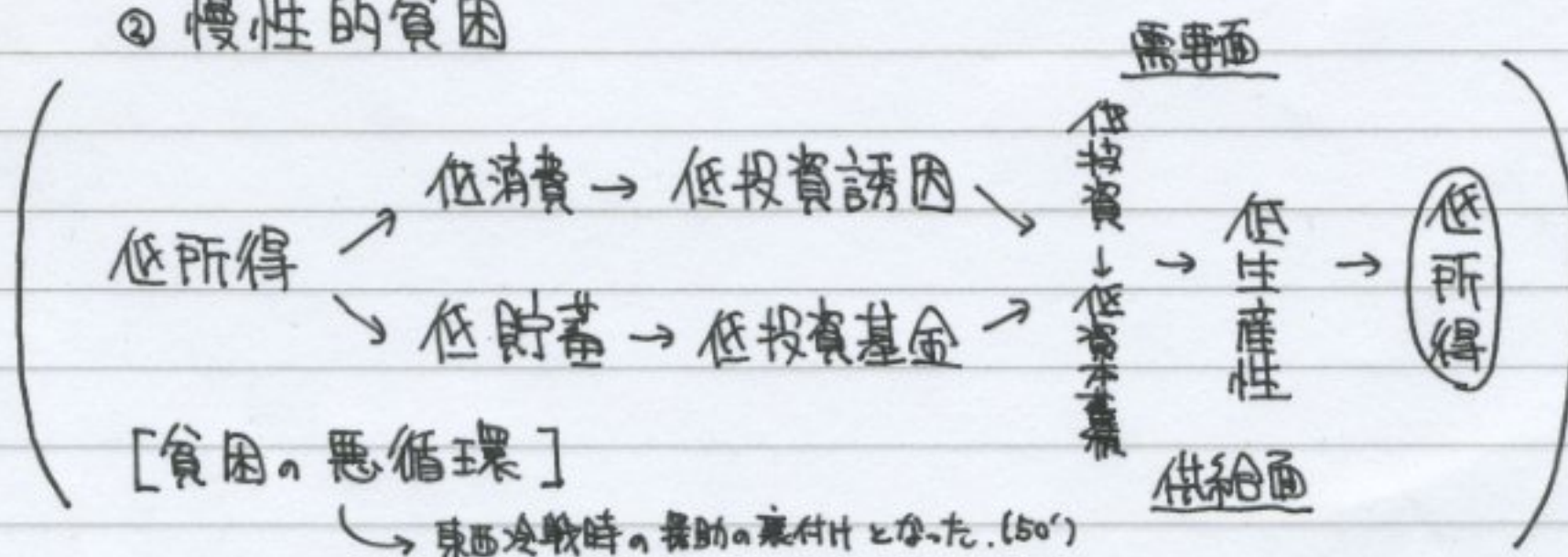
↓ の集積

理論

○-1. 分析対象 → 発展途上国

- ① 慢性的貧困 ... 長期的にみれば貧困ラインからの脱却が困難
- ② 初期条件としての植民地支配 ... モノカルチャー・対外依存の特徵
- ③ 所得分配の不平等
- ④ 慣習経済の優越 ... コミュニティ・地主 ... etc.

② 慢性的貧困



③ 所得分配の不平等

← 社会階層の固定性

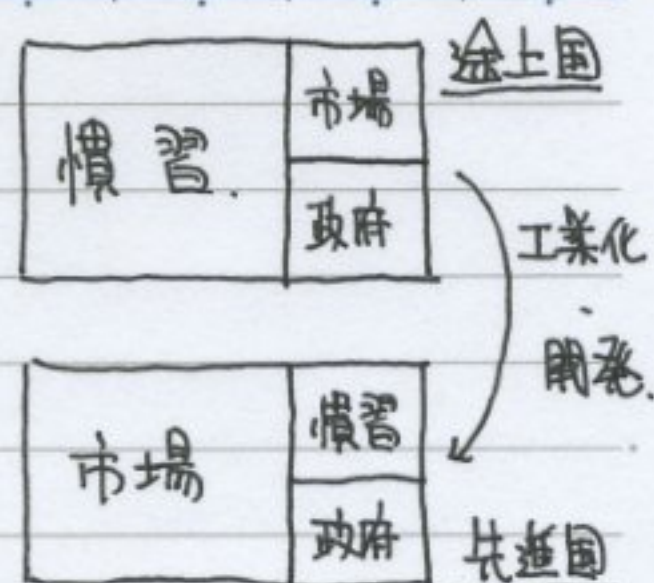
↓

自尊心・向上心の欠如

→ 有能な人々がはたかりにくい
⇒ 非効率

④ 慣習経済の優越

- I. 市場経済 ... 価格変動による資本主義
 II. 慣習経済 ... コミュニティなどの主導する経済変動
 III. 命令経済 ... 政府主導の経済統制



0-2. 経済発展とは? → 人々に与えられる選択肢の幅が拡大することによって、人間生活の質が向上する歴史的過程。

① 経済成長 ... 1人あたりの国民所得の増大 → 消費の増大 → 企業投資の増大
 貯蓄の増大 → 投資資金の増大 → 生産性の増大

② 産業構造の高度化 : 『ハ・ティ = クラ-7の法則』

→ 経済社会・産業社会の発展につれて就業人口の比率、所得の比率の多寡が

第一次産業 → 第二次産業 → 第三次産業
 (農業) (工業) (サービス業)

の順で推移して、選択の幅が増大する。

③ 社会諸制度の整備による公正な所得分配 : 『ワズネツ』の逆U字仮説

→ 一般にまず格差が拡大し、後に一定段階で縮小する。

④ 慣習経済から市場経済への移行

④. 初期は貧しく皆が平等

→ 市場経済の導入で格差社会へ
 → 社会安定のため福祉などが充実

0-3 発展途上国の特徴

① 労働力について、 1). 人口問題 (特に高い人口圧力)

- 人口増加率が高いため、食料生産が追いつかない
 = マルサスの罠 : マルサスの『人口論』
- 古典派低水準均衡の罠 (リカードの罠)

- **人口転換** ... 経済成長に伴い I → II → III と推移

I. 高い出生率のまま死亡率低下
→ 人口が加速的に増大

II. 出生率は一定で死亡率下げ止まり
→ 人口成長率が低下

III. 死亡率一定のまま出生率が低下
→ 人口減少

2). 労働問題

- **低い労働生産性** ... 土地が少なく、教育レベルが低いことが原因

- **失業 (不完全失業)**

- **労働市場の二重構造** ... 教育を受けたレベルにより異なる労働市場が存在

② 資本について. 1) 資本の不足

- **貧困の悪循環** ... 自国ではなく他国の通貨で投資

- インフレ・ハッジや **為替ハッジ** としての「**非生産的用途**」への投機行動

→ 企業への投資や銀行への預金とせずに、モロに投資すること

- **big push 理論** と政府開発援助 (ODA)

→ 「**二つのギャップ理論**」
(50年代の理論)

2). 金融制度の未発達と「政府の失敗」

政府の
既得権益集団 (財閥系企業) は ワイロのおかげで
低金利で融資もらえる

- 企業の資源がワイロに使われてもたない
- 企業の競争力が下がる
- 質の悪いプロジェクト (収益が低い) に投資しやすくなる

↓ 水バズン!!

- 「抑圧された金融」

- 組織金融

- 金融市場の二重構造

- 未組織金融 (つみ. サラ金) の発達

- 農村金融と micro credit の発達

↓
これには 金利の引き上げで対処.

↓
低所得者への抑圧にもなってしまう...

③ 土地の半封建的土地制度.

① 3ジ3的中小地主制度.

→ 農地改革がラフ. 地租と
税に負担させやすいので.

② 3米的伝統的大農園制度 (3シエント)

→ 農地改革が困難.

2) 伝統的定着農耕社会の慣習.

水利用の管理
により生きた.

・ コミコニティ

・ パトロン=クライアント関係

「緑の革命」
で変化.

3) 初期条件としての資産分配が難しい

→ 例えば、日本は米社会により
可能となった

- ・ 農業階梯
- ・ 農地改革の必要性.

④ 所得分配の公正性の欠如

→ 社会階層の固定化 → 自尊心・向上心の欠如

↓
有能な人材が
はい上がりずら
= 非効率的.

・ Trickle down 仮説 の妥当性.

↳ 効率性を上げ、成長を重視することで
全体へのパイを増やすことで貧困層の
生活も改善するという考え.

(1) Education for All (1970'以降...) ... 初・中等教育を全7の人に施す.
→ 所得が全体的に増加.
かつ 経済発展にもつながる.

代替案.

(2) Green Revolution から System of Rice Intensification へ

↳ IRRI が 1960 年頃開発した 高収量品種 (IR-8)

種子会社はもうかる!!

- ・ ④面
- ・ 短幹
 - ・ モンスーンの強い風に強い
 - ・ 早熟 (二期作以上が可能に)
 - ・ 肥料投入で大きな収量が見込める

- ・ ⑤面
- ・ F1種であること → 毎回苗を買い
負担
 - ・ 近代設備 (化学肥料・農業
灌漑設備) の必要

<内容>

・ **乳苗** ... 7~10日育った苗で田植えが可能 = 苗代が経ない.

・ **粗植** ... 間を広くとり、植える ←→ GRとは逆!! (集約的)

・ **間断灌漑** ... 水の出し入れを頻繁に行う → バッテリーを利用.

・ **1本植え**

- ↳ ④面
- ・ 収量 up!!
 - ・ 化学肥料や農薬が不要
 - ・ 稲の種類を選ばない

- ⑤面
- ・ 水の出し入れの管理
や乳苗を植える
作業が難しい

↑ IRRI・種子会社の反発.

(3) International Migration.

→ 頭脳流出の問題 + 送金の問題(先進国で単純労働に
知識人も従事してしまう)出稼ぎ労働者からの仕送りで、
ドルなどの外貨が流入。↓
自国の通貨とたくさん交換される。↓
自国通貨の需要up ⇒ 通貨高!!↓
産業が発展しないのに、通貨高になり
輸出が不利に...→ 経済成長の妨げに。オランダ病

↳ 天然ガス田開発で投資が集中

↓
通貨価値が上昇↓
国内産業は凋落。通貨高で輸入品が
安くなり、自国の
製品が売れなくなってしまう...

(4) Social Capital: 社会関係資本. 東南アジアなど金利国は親戚や友人との

— Community and Social Network. —

人間関係が重要。

(セーフティネットとしても活用される)

↳ この人間関係を資本と考える。

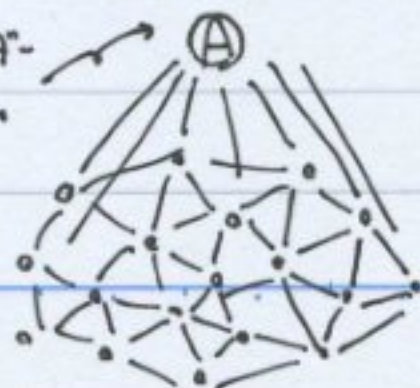
。スラムでのコミュニティーの発展 → 族内婚と親族集団の拡大。

ex). ファリセンのスラムの Compadre System: 自分の子供の名付け親

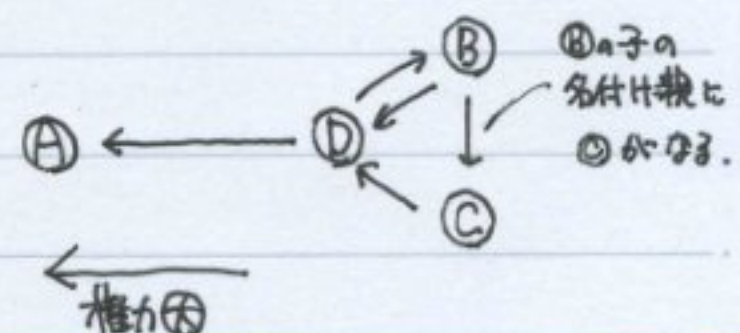
(God-father / mother) になる

もらうことで家族間が
緊密に結びつく。

今では親族関係と

Compadre Systemでスラム内のほぼ全
の家族が結びついている。スラムの4-5
が作られる。

拡大。



II. 農村経済

1. 経済発展における農業の役割 二場合. → 工業化のための農業の役割. 労働者の食料供給

- ① 生産における貢献 ...
- ・ 工業の原材料 (生糸や棉花など) の生産 ... 側面.
→ 原料価格 down ↓
 - ・ 農業生産性 up ↑ → 食料価格 down ↓ →
→ 労働者の実質賃金 up ↑ →
→ 資本家への賃上げ圧力 down ↓

- ② 生産要素における貢献 ...
- ・ 生産性 up ↑ → 地主の受ける地租 up ↑
→ 貯蓄 up ↑ → 投資への基金額 up ↑
→ 工業への投資 up ↑
 - ・ 効率性 up ↑ → ~~余剰生産~~ 余剰労働者 up ↑
→ 工業労働者 up ↑

- ③ 市場における貢献 ... 農業部門の拡大 → 市場の拡大
↓
工業部門にも恩恵

- ④ 外国為替における貢献 ...
- ・ 生産性向上により食料生産が飽和となり、主要食料以外にも商品作物も生産できるようになる。
→ 外貨獲得!!

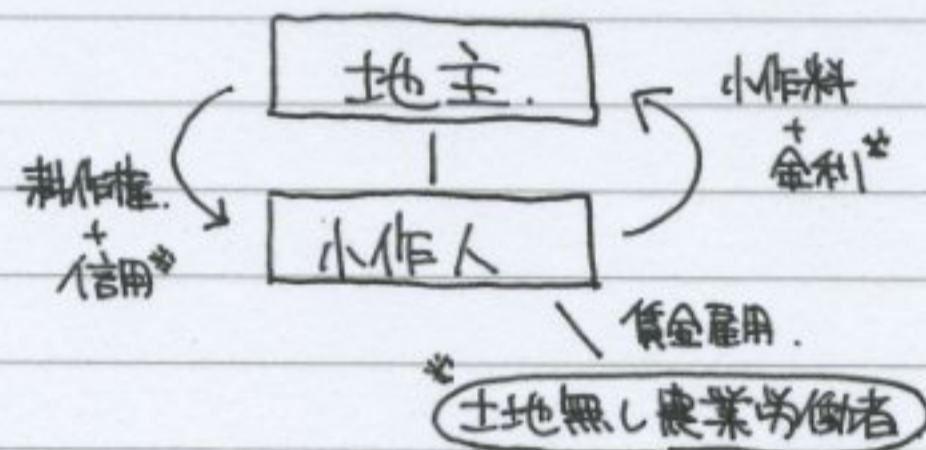
2. 半封建的農地制度と農業階梯

A. 開発途上国の土地制度

- ① 生存農業 ... 粗放的焼畑移動耕作: 3フリカ ← 自然条件にかなり依存。土地が回復する前に利用するので土地がますます荒れる。
- ② 半封建的農地制度: 3ジ3の中心地主制度 + ラ米の伝統的大農園制度
- ③ 近代的法人農園制度: 外資を用いたやり方でプランテーションが代表例。

B. 半封建的農地制度.

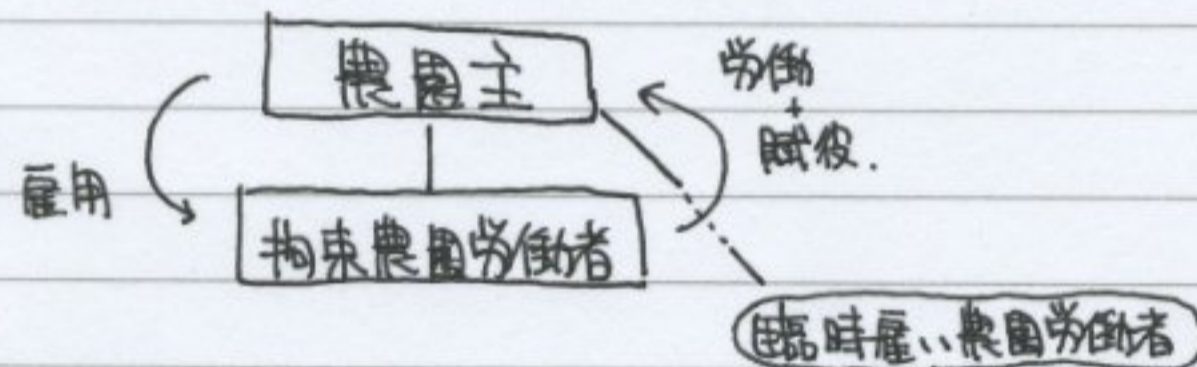
① 了了型中小地主制度.



* 地主は 端境期にお金と高金利で農民に借す.

* 土地無し農業労働者は土地改革が未だ土地をgetできない.

② ラ米型伝統的大農園制度.



☆ ①の小作人と②の拘束農園労働者との違い.

• 経営権の有無

▽ ①の土地無しと②の臨時雇いとの違い

• 土地の有無

C. 土地を媒介とした労働契約.

(① 家族経営... 3ヶ月前からオーストラリアで見られるが、金上国ではない).

② 賃金労働制度: 地主が毎回同じ取り分を小作人に支払う.
ラ米などの大農園制度で見られる.

③ 分益小作制度: 取分高を決められた比率で地主と労働者で切分ける制度. リスリも互いに分配できる.
だが、社会的に最も非効率.

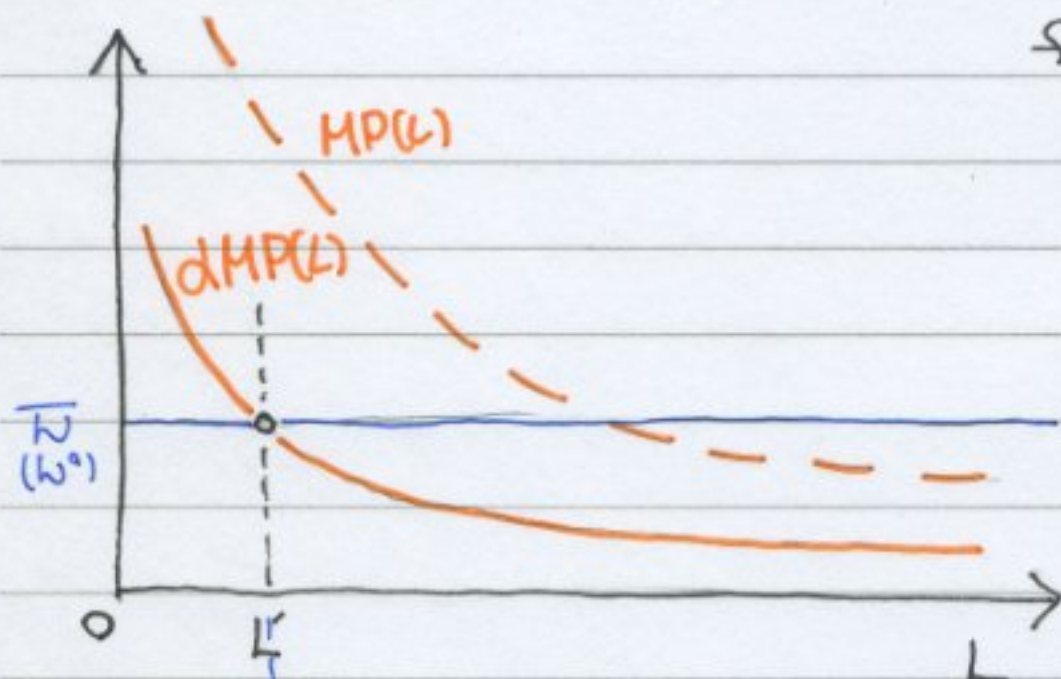
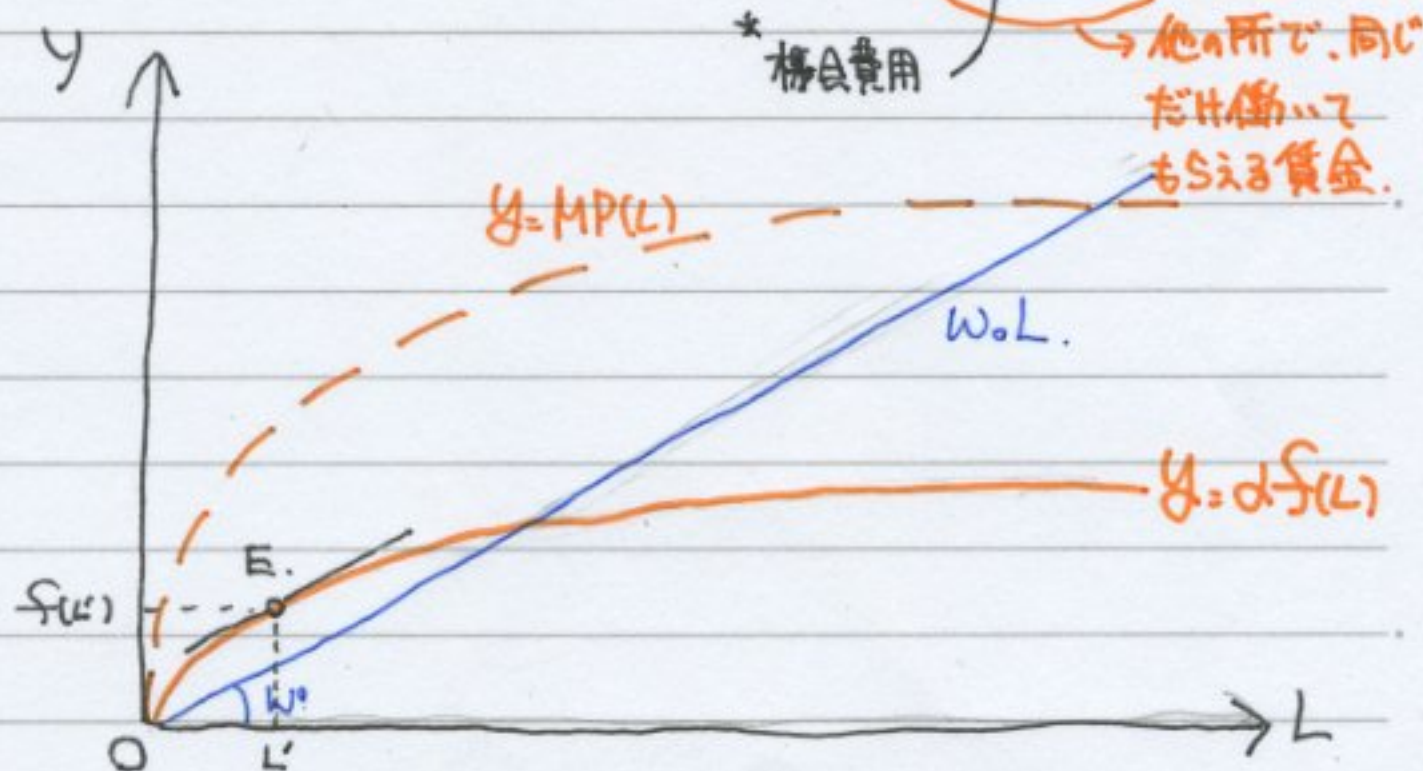
② 分益小作制度

折半率(小作率)を α とする \rightarrow つまり、取り分は 地主: 小作人
 $= (1-\alpha) : \alpha$

分益小作農の目的関数: $\pi(L) = \alpha F(L) - \underline{w^0} \times L \dots (*)$

※ 機会費用とは?

→ ある意志決定(今日は小作地で働くこと)
 を行なった結果、実現することのできなかった
 選択肢(バイトするとか...)があり、これが
 もたらす損失分のこと。(つまり、別で働いて
 たらもらえた時給のこと)。



ここまでは、小作地で働く方が有利!!

＝不利なのは、
 他で w^0 もらって働く方が
 たくさんお金をもらえる...

(*) を賃金制と同じ要領で微分

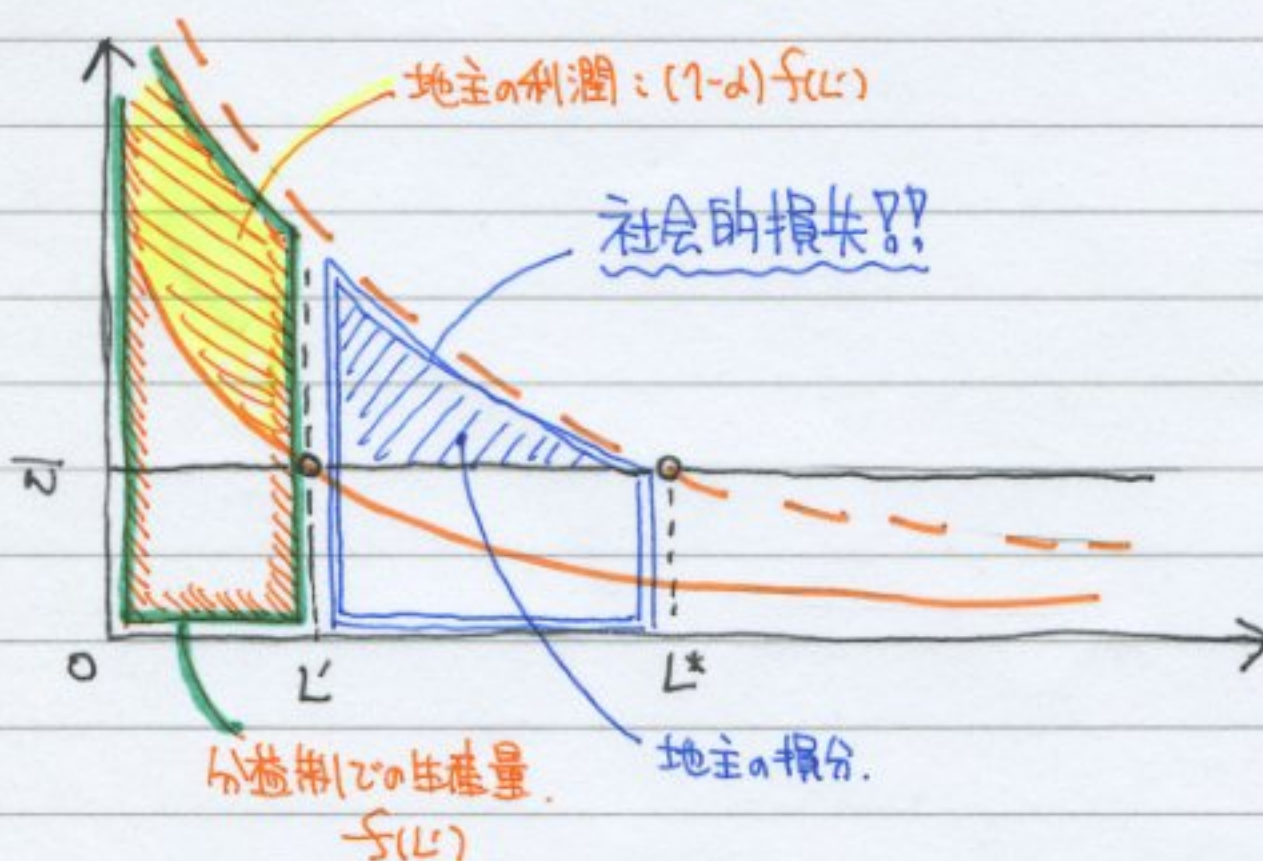
$$\begin{aligned} \frac{d\pi}{dL}(L) &= \alpha \frac{dF}{dL}(L) - w^0 \\ &= \alpha MP(L) - w^0 = 0 \end{aligned}$$

$\therefore \alpha MP(L) = w^0$ を満たす。

L' だけ分益小作農が労働を投入
 するとき、利潤が Max になる。

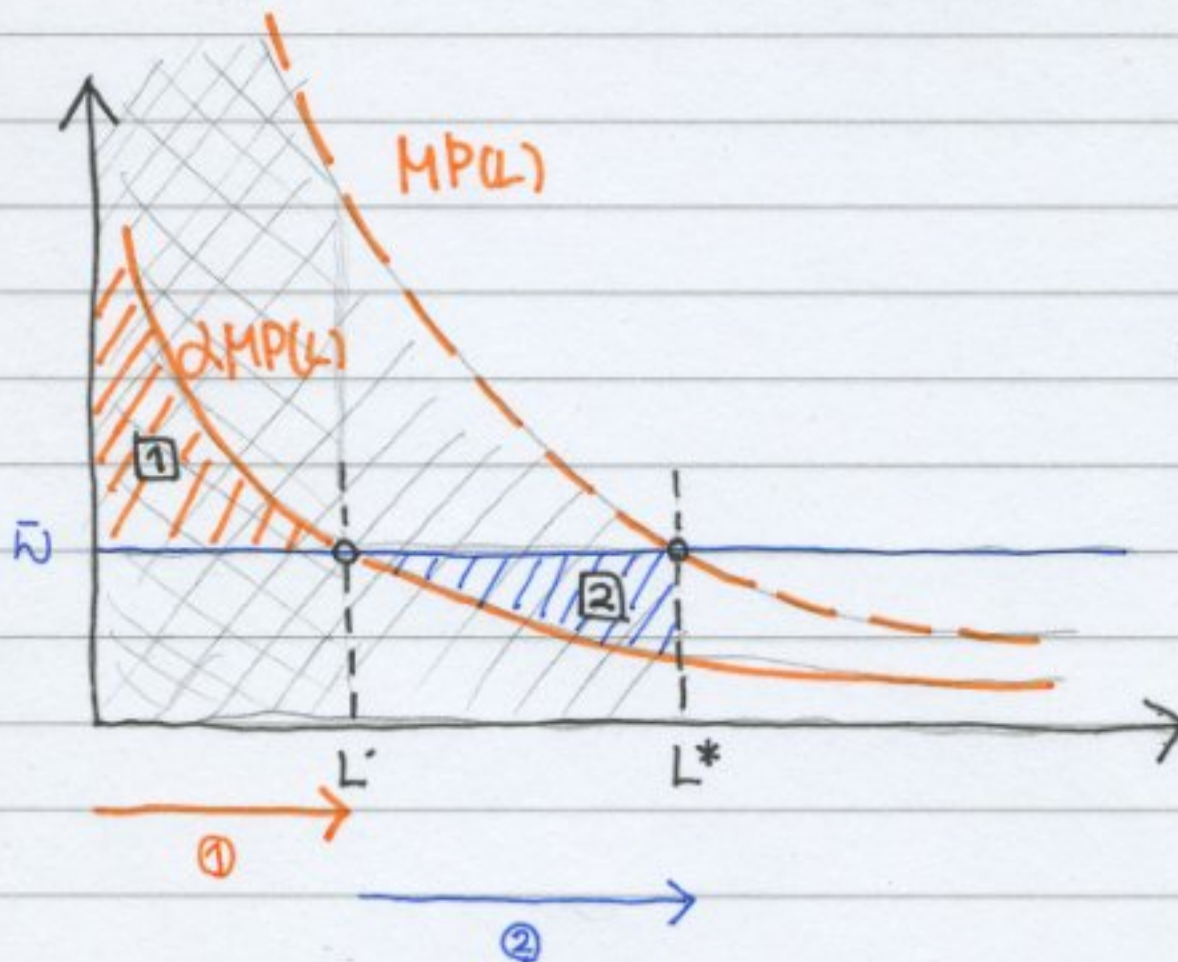
but!!

左のグラフをみて分かるように、この制度は賃金制
 よりも生産量が減ってしまう。(社会的損失)
 これは地主にとっても損かになってしまう。



ある条件下では

○ 労働契約の同値性(i) → ① 賃金労働制
② 分益小作制) が結果的に同じになる。



同じにするには左下の「う」で、分給小作農に賃金制の労働者と同じく L^* まで働いてもらう必要がある。でも、 L^* は小作農的には他で働くよりも損になっちゃう…。

この損な条件を飲ませるにはどうすればいいのか？

小作人は $\alpha f(L) \geq w \cdot L$ という状況で働きたい
というインセンティブを持つ。

さらに言えば、その土地で安定した職を確保
できるという点から $\alpha_f(L) = 10\%$ でも
小作人は働くはず!!

つまり、① = ② (パラメータ) となる折半率みに設定すれば、2つの制度は同じになる。

地主は小作人に

「①まじ甘い汁吸ってたんだから。」

②「自分も働け!!」とか言えば小作人は
いやいや承諾するはず。

るために、地主は小作に端境期にお金を貸しているのを命令できる立場にある。

このときの折半率 α' を求めると、

$$\begin{aligned} \alpha' f(L') - W^0 L' &= W^0 (L^* - L') - \alpha' \{f(L^*) - f(L')\} \end{aligned}$$

$$\Leftrightarrow \omega^* L^* = d' f(u^*)$$

$$\Leftrightarrow \alpha' = \frac{h^* L^*}{f(L^*)} \quad \text{とある.}$$

でも、このハナシは現実的ではない。なぜなら、

「購読費用」が無視されるので...

② 賃労働制ならどれだけ働いてももらえる額は一定なので、労働者はサボろうとするはず。
そのため監視が必要になる。

それに加え、折半率は慣習的に決まってるので
なかなか動かせるえない。

○ 3米型の買手独占労働市場

地主の目的関数: $\pi(L) = f(L) - \underbrace{w(L) \times L}_{\text{労働者の供給関数}}$

労働者の供給関数

↑ このこと地主がつかんでいる。
つまり、労働者たくさんを1人の地主が独占している。

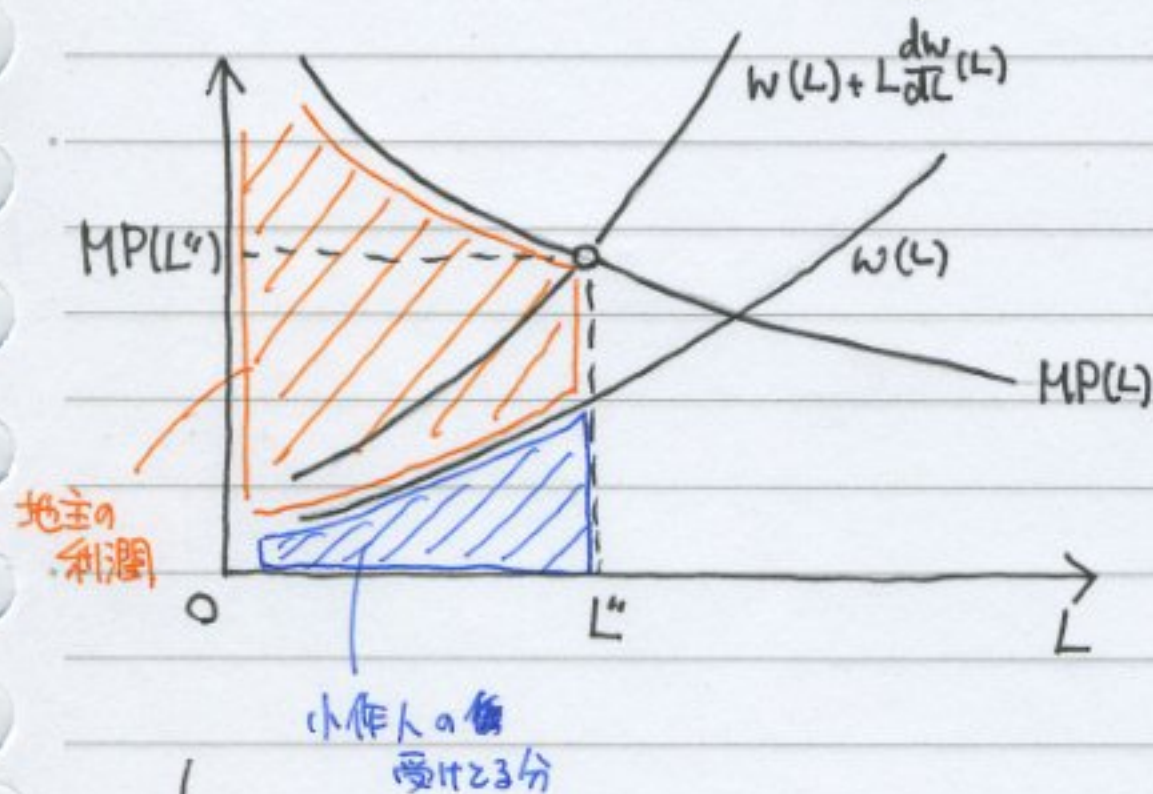
$$\frac{d\pi}{dL}(L) = \frac{df}{dL}(L) - \left[w(L) + L \frac{dw}{dL}(L) \right]$$

他の制度と同じ要領で微分。

限界費用

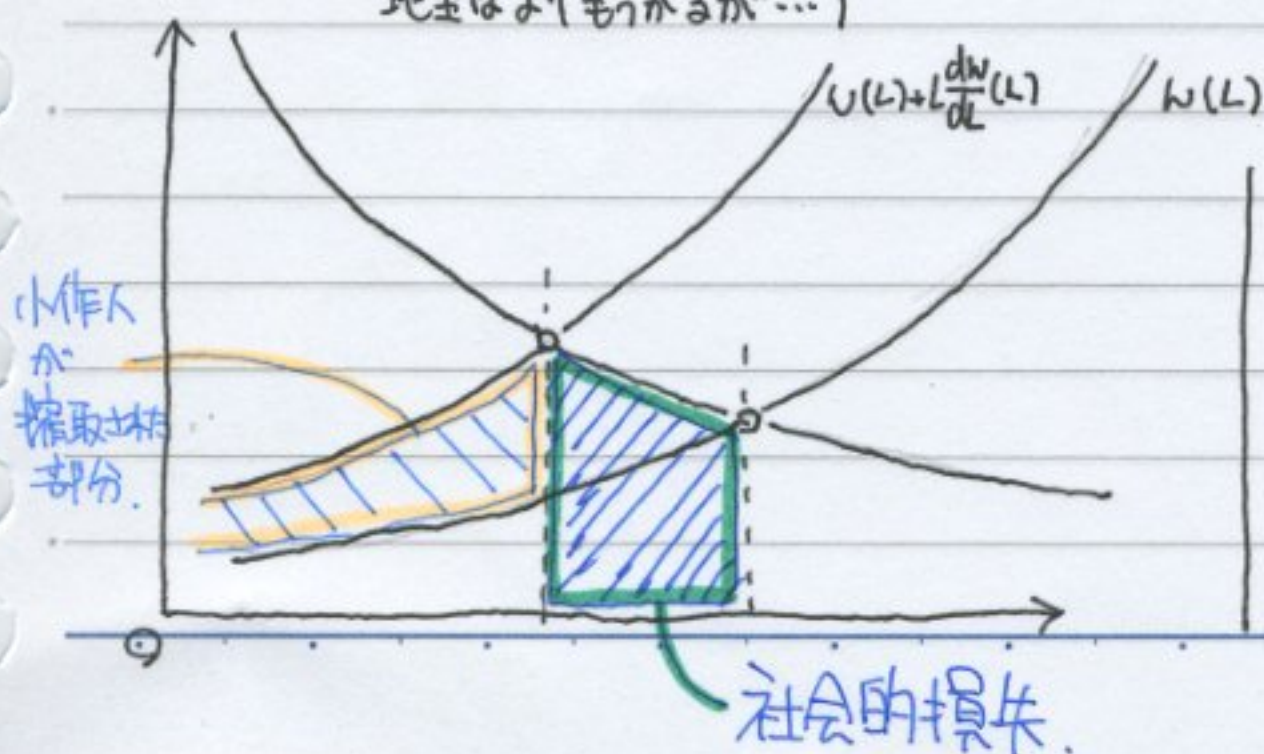
$$= MP(L) - \left[w(L) + L \frac{dw}{dL}(L) \right] = 0$$

∴ $MP(L) = w(L) + L \frac{dw}{dL}(L)$ を満たす L にて最高値



この制度でも「社会的損失」が発生する。完全競争下とは異なる

3の分、 $MP_L = MC$ が成り立たないため
小作人は搾取され、また生産量も賃金制より下がってしまう。(3の分地主はおもひかるが...)



<補講の問題>

前提 (生産関数: $f(L) = -\frac{1}{2}L^2 + 100L$
労働供給: $w = L + 40$)

$$f'(L) = MP(L) = -L + 100$$

$$\begin{aligned} \text{地主の利潤関数: } \pi(L) &= f(L) - w(L) \times L \\ &= f(L) - [L + 40] \times L \\ &= \left(-\frac{1}{2}L^2 + 100L\right) - (L^2 + 40L) \\ &= -\frac{3}{2}L^2 + 60L \quad (*) \end{aligned}$$

$$(*) \text{ を微分して } \frac{d\pi}{dL}(L) = -3L + 60 = 0$$

$$\therefore 3L = 60$$

$$\therefore L = 20$$

$$\text{つまり、} \underline{L = 20} \quad \text{生産量 } y = 1800$$

二本と同じ前提で、完全競争下での賃金制を考えると、

$$L = 30 \quad \bar{w} = 70$$

$$\text{生産量 } y = 2550 \quad \leftarrow \text{二本に比べて4割増の生産量!!}$$

○ なんで、途上国では分益小作制度がとられるのか？

(1. 2. 3)

← 対望み

	小作		地主	
	収量変動.	経営自主権.	収量変動	取引費用.
賃金労働制度.	1 or 2	3	3	3
分益小作制度.	2	2	2	2
定額借地制度.	3	1	1	1

↑ 元張りで増える
定額の方が好き.

↑ 監視の必要もなく、リスクも低い
定額制が地主は好き.

小作農も地主も痛み分けて
フェアとなる分益小作制度に両者の妥協で
落ちつく。

3. 「緑の革命」と農村社会

I. 「緑の革命」の背景

+α,
他にも、

- ① 政治的背景 ... ベトナム戦争により、ミャンマーが共産化される可能性が上昇。共産化にながかりやすい「農村の貧困」の緩和が必要となり、主要作物である米の増産が務急務となったため。
- ② 人口増加による賃金圧力 ... 医療レベルの上昇で人口が増えるため、需要増により農産物価格が上昇。労働者の賃金圧力が増えるのを恐れた。
- ③ 外貨不足 ... 工業化に必要な外間材、資本財輸入に使う外貨をかせぐには商品作物を輸出していく必要があるが、生産性が低く、国内でまかなうのがたいへんで商品作物を作る余裕がない。

II. 「緑の革命」の定義

1) 高収量品種(HYVs)の特徴。(植物遺伝学的革新)

- ・ 短強稈種 ... 台風対策
- ・ 低い感光性 ... 葉が日に向かい、葉張らない
- ・ 高い耐肥性 ... 7ヶ月葉が太り、延びず、栄養が別アトツにいかない
- ・ 早熟種 ... 二期作以上が可能

2) 「緑の革命」による工学的技術革新

- ・ 圃場整備: 深水田 → 浅水田へ

↑ トラクターなどによる整地作業が必要

- ・ 灌漑・排水設備の必要性: 雨期での刈取 → 排水が必要
- ・ 乾期での田植 → 灌漑が必要

3) 経営的技術革新.

- ・商品作物の導入による複合経営化.
→生産性が向上し、裏作としての商品作物の導入が可能となり、生存農業から商業的になった。
- ・費用便益分析

4) 行政的技術革新.

- ・HYVs・生産資材(肥料や農薬)の配布
- ・農業技術指導(新しい農法など...)
- ・産米貯蔵・集荷体制の整備.

III. 緑の革命の諸効果.

A. 賃金圧力の抑制 ← 米の増産による米価安定によるもの。
これにより、資本家は投資を増やせて工業発展につながる。

B. 農業余剰の工業部門への移転.

← 地主の利潤が生産性upで増え、貯蓄も増えれば工業への投資原資も増え、工業発展につながる。

C. 外貨稼得 ← 米の生産性upが可能となった商品作物の導入で外貨稼得ができるようになり、工業化のための中間材・資本財の輸入を増やせる。

D. (工業製品の) 国内市場の拡大.

← 米の増産で米価が安定し、労働者の実質所得が増加。また、商品作物栽培で農民の所得も増加するため。

E. 農村不安の抑制 ← 「赤の革命」(共産主義革命)へのリスクが農民所得の増加で下がり、海外からの投資が増える。

IV 「緑の革命」の諸問題.

① 問題の源泉 ① 土地所有関係への配慮の欠如

→ どの地域も同じパッケージでやりました。

② 政府による農民支持体制の未整備.

③ 環境負荷と持続可能性への疑問

- 高収量品種は大量の水を使うために、地下水が枯渇してしまう。
- 農薬や肥料の大量使用は長期的に土地をやせさせてしまう。
- ト1種なので自家採取・種子の交換がムリなので持続可能性が低い。
- 遺伝子組換え植物による多様性の破壊

A. 「緑の革命」の農村社会階梯への影響.

1). 小作農の対地主交渉力の弱体化.

→ 小作農の経費負担が増え、地主にお金を借りる
生産事故の購入など

額が増え 費用の折半や小作契約で不利になる。
地主の立場が上がり

2). 土地無し農業労働者の没落.

→ 機械化によるもの.

3). 小作人の没落と労働市場の変容.

→ 地主による土地囲い込み.

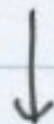
4). 対精米業者との交渉力の弱体化.

→ 雨期での刈取のために、天日乾燥時に
二期作が
可能に例. 雨でぬれてしまいクズ米となる可能性が
上がり 買ったたか本になってしまうようになる。
(クズ米でないのに、クズ米だと本になってしまうことも...)

B. 地域間格差の拡大 ← 開発の程度による格差 排水灌漑.

C. コミュニティの変容 ← 小作人のインセンティブが上がったため.

無制限刈取慣行 ... 村の誰もが刈取に参加してた。
(慣習的な社会福祉となつた).

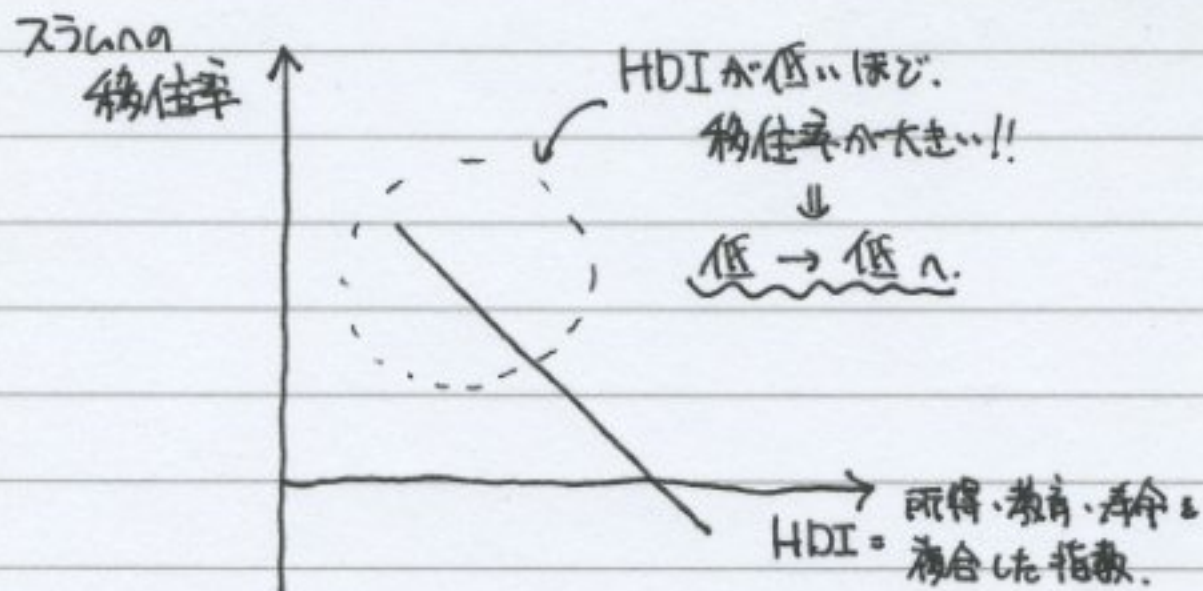


制限刈取慣行 ... 女性や子供、高齢の労働者中心
に村の人を刈取から排除していく方向.

IV 「都市の貧困」

1. 貧困地区の形成 ... 貧困にあえぐ低開発の農村から.

都市の貧困地域 (スラム) への移住が多い.



マニラなどの都市のスラム.

流入!!

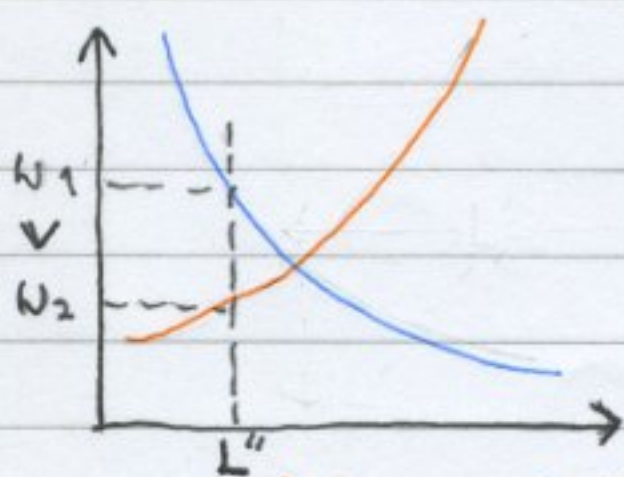
低開発の農村地域
(Bicol や Eastern Visayas).

緑の革命の恩恵が
小さく、台風などの
で生活が不安定な地域

2. 人口移動と失業.

・二重経済論 ... 農村と都市では経済のXカーブが違ふ.
という考え方.

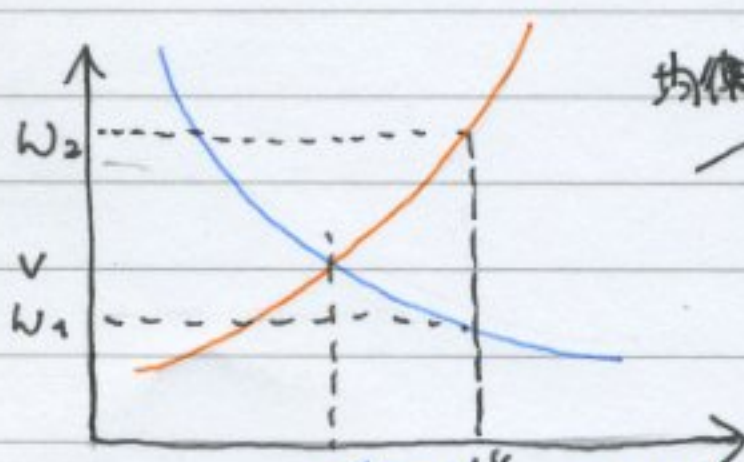
このモデルについて、6つの変数で考えてみる.



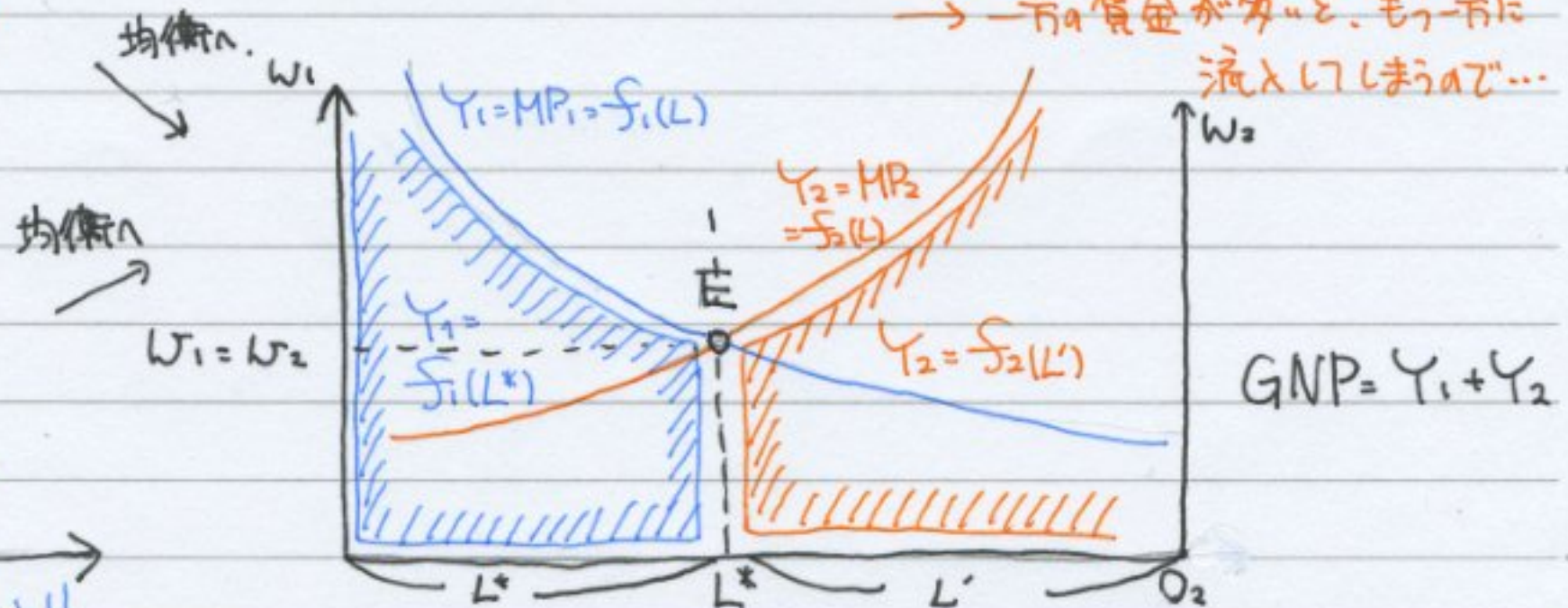
農村への人口流入!!

- ・ $Y_1 = f_1(L_1)$... 農村の生産関数.
- ・ $Y_2 = f_2(L_2)$... 都市の生産関数.
- ・ $W_1 = f_1'(L_1)$... 農村での利潤最大化条件
- ・ $W_2 = f_2'(L_2)$... 都市
- ・ $L_1 + L_2 = \bar{L}$... 労働力の賦存 (労働者全体の数は一定)
- ・ $W_1 = W_2$... 均衡条件

→ 一方の賃金が多くなると、もう一方に流入してしまうので...



都市への人口流入!!



$GNP = Y_1 + Y_2$

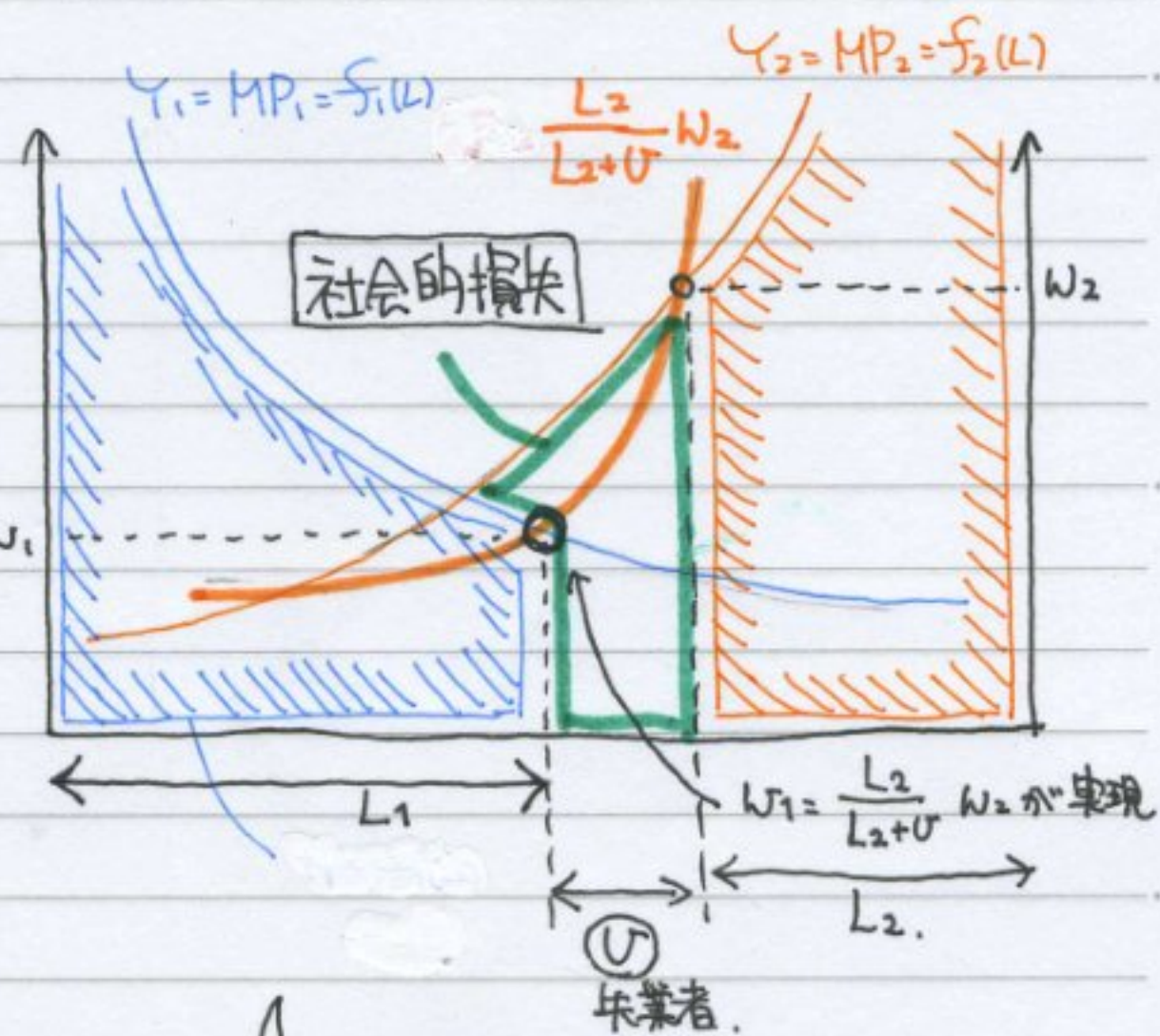
・ このモデルの問題点

→ 都市と農村で賃金が同じになど
なるはずがない!!

↓
なら、新たなモデルを考へてみる。次のは都市の失業者を
前提とする。

7つの変数。

- ・ $Y_1 = f_1(L_1)$
 - ・ $Y_2 = f_2(L_2)$
 - ・ $W_1 = f'_1(L_1)$
 - ・ $W_2 = f'_2(L_2)$
 - ・ $L_1 + L_2 + U = \bar{L}$
 - ・ $W_2 = \bar{W}_2 (> W_1)$
 - ・ $W_1 = \frac{L_2}{L_2 + U} W_2$
- 生産関数
利潤最大化条件
労働力賦存
最低賃金制
均衡条件



農民はらりやなどで $\frac{\text{都市雇用人口}}{\text{都市労働人口}}$ が
なんとなく分かっているという前提で、
農民が都市に行くかどうかの意思
決定は「都市の期待賃金」と
今の賃金とを比べるにかけ
決めるとする。

失業者を無くして

社会的損失を消す。

方法について考えていく。

※ W_2 が W_1 より高くなる根拠。

- ・ 「効率賃金仮説」... 高い賃金において労働者がやめたくない
と思っ 頑張らせる。
- ・ 「転職率仮説」... 今までつとめた労働者を転職
させないように高い賃金で。